春岡村の伝説

～地名の由来～ 「大砂土村」と「大和田村」

明治の町村大合併で現在の見沼区には4つの村が誕生しました。春岡村、七里村、大砂土村、片柳村です。アーバンのある春岡村とお隣の七里村は一つの村にまとまるにあたり、もめて大変でしたが、すんなり合併したのが大砂土村です。明治22年に土呂村、西本郷村、今羽村、大和田村、砂村、島村、堀崎村の7つの村が一つになりました。ただ、合併に際して郡が示した新しい村の名前は「土田村」でしたが、砂村、大和田村から、村名は大きい村の名を折衷した村名にしたいという希望があり、大和田村・砂村・土呂村の頭文字をとって大砂土村となりました。

ちなみに当時の町村会議員の選挙権・被選挙権を持つのは、昔社会科の授業で習ったように思いますが、その町村に2年以上住んでいる満25歳以上の男子で、かつ年額2円以上税金を納める者でした。そして、議員は名誉職、つまり無給で任期は6年でした。

旧村「大和田村」の名前の由来…

永禄3年（1560）、信濃国上田の生まれの島主殿尉という者がこの地にやってきて、荒れ果てた土地を開拓し、出身地にちなんで「上田村」としました。その後、家康が江戸に入国した天正18年（1590）、村の特産品の大和芋を家康に献上したところ、大和芋が大好物だった家康はとても喜び、大和芋のできる良い田であるとして、村名を「上田村」から「大和田村」に改称したということです。

近くの土呂村野原で、徳川家の猪鹿狩りが行われたときには、大和田村から6人、深作村からは45人の追勢子人足を出しています。 このあたりにイノシシもシカもいたのですね。さすがにクマはいなかったようです…。（参『武蔵国郡村誌』『大宮市史3下』『（参・大宮市史4）』）

（東三番街　平山由喜）

AI に「鹿とイノシシを追いかける人の絵を描いて」と入力して出来た画像